

第3章 本市の文化の現状と課題

1. 宇都宮市の文化特性

本市には長い歴史と伝統の中で培われてきた、市民の誇りとなる文化資源が数多く存在しています。本市の文化施策の実施にあたっては、これらの貴重な文化資源を尊重し、守り、伝え、更にその価値を高め、文化を通じた人づくり、まちづくりまで広げていくことが必要です。

(1) 本市の歴史と伝統

本市は、中心市街地に今も鎮座する二荒の杜を中心に栄えた長い歴史を持つまちで、数多くの文化財等があります。特に全国に類を見ない大谷地区の奇岩群は、本市の観光資源となっています。



■ 二荒山神社



■ 大谷景観公園

(2) 生活文化の継承

本市には、指定、未指定のお祭りや芸能、伝統工芸、伝統料理などの生活文化が各地域に残っており、現在でも地域の保存会や自治会などが中心となって、地域に根ざした伝統行事が行われています。



■ 出初式



■ 梵天祭

(3) 地域の文化資源を活かした個性あるまちづくり

本市は全国的に「餃子のまち」として有名であり、特に中心市街地等では「餃子」の他にも「カクテル」など「食文化」によるまちづくりに成功しています。更に「ジャズ」「妖精」「百人一首」のまちとして「文化」を通じたまちづくりを推進しています。



■ 市内のジャズイベント



■ うつのみや百人一首市民大会

(4) 質の高い芸術文化に触れることが出来る機会の創出

本市は、県内最多の座席数を誇るホールを持つ「宇都宮市文化会館」や他の公立館には少ない、ファインアート同様デザイン作品収集に力を入れている「宇都宮美術館」を所有しており、市内外の多くの方に質の高い芸術文化にいつでも触れていただけるといった恵まれた環境を持っています。



■ 宇都宮美術館



■ 宇都宮市文化会館

(5) 「宇都宮」の文化を支える市民の存在

本市の文化活動は、全国的にも誇れる自主的な活動を行っている文化財ボランティア協議会や宇都宮の「ジャズ」を盛り上げようと組織された「うつのみやジャズのまち委員会」をはじめとする各種文化団体、文化人による市民主体の活動に支えられ発展を続けています。

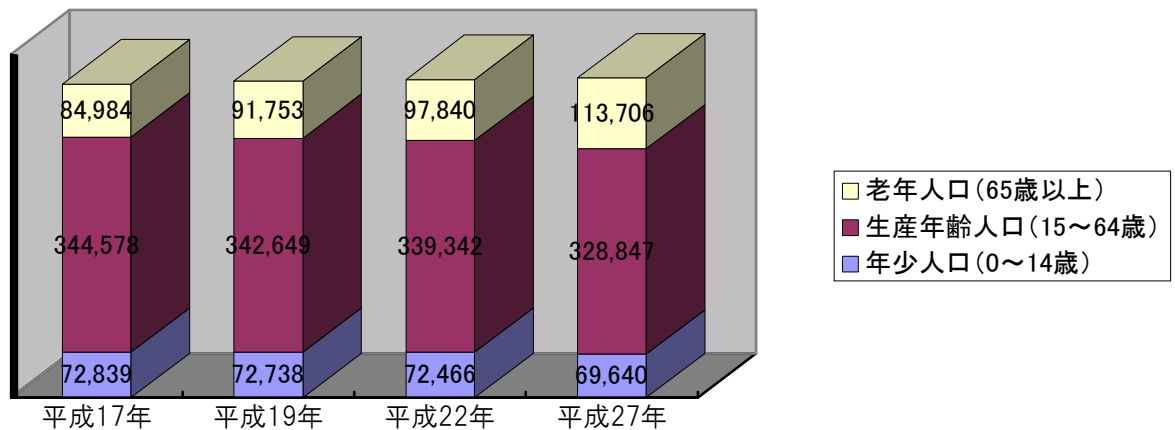
2. 宇都宮市における文化を取り巻く環境の変化

(1) 少子高齢化

全国的な動向の例にもれず、本市においても「年齢構造別人口及び構成比」のデータにあるとおり、少子高齢化が進行しています。

文化振興面においては、各分野の文化活動者から活動の中核となる人の高齢化や活動を引き継ぐ担い手不足といった問題が挙がっています。

【年齢構造別人口及び構成比】



(2) 市町合併

宇都宮市は、平成19年3月に周辺の旧上河内町、旧河内町と合併し、北関東初の50万都市となりました。

町指定指定文化財が継続して市指定文化財へ移行され、それに伴い愛護団体が新設されるなど、旧市町の伝統や文化を守りつつ、新市に紹介し広めるような活発な動きも出てきています。

(3) 都市ブランドの推進

都市間競争が激化する中、宇都宮市は都市の魅力を「都市ブランド」として発信していくことで、宇都宮が「100年先も誇れるまち」となることを目指す「宇都宮ブランド戦略の推進」に取り組みはじめました。

こうした中で、本市独自の文化は、都市の魅力を向上させ、市内外に発信できるとともに、市民のアイデンティティを確立する要素として、大変重要な役割を担うものとして重要視されてきています。

3. 計画前期（H18～H22）の推進状況

これまで本市では、基本理念である「歴史と個性を活かした宇都宮文化の創造と心豊かな人づくり」の下、3つの基本方針と、それを構成する基本施策を推進してきました。

各基本施策の取組の達成状況は次のとおりです。

(1) 基本方針Ⅰ「自主的な文化芸術活動を展開しやすい環境づくり」

基本施策1 文化芸術の学習機会の充実

各種教育普及事業については、参加者数や開催回数目標値を達成しており、文化芸術の学習機会の充実が図ることができたといえます。

【主要な取組の達成状況】※平成22（現状）の数字は平成22年3月31日現在

○ 文化会館や美術館による出前授業や出前講座など教育普及事業の充実

指標名	平成16	平成22 (目標値)	平成22 (現状)
文化会館の教育普及事業参加者数	9,000人	9,500人	25,693人
美術館の教育普及事業参加者数	4,000人	4,400人	5,453人

○ ふれあい文化教室の拡大による小・中学生の学習機会の充実

指標名	平成16	平成22 (目標値)	平成22 (現状)
ふれあい文化教室開催数	80回	120回	126回

基本施策2 優れた文化芸術の鑑賞機会の充実

文化鑑賞を行っている市民の割合が目標値を大幅に上回り、文化会館の利用者数は若干減少したものの美術館の鑑賞者数は増加しており、文化鑑賞を行っている市民の割合も増加しています。

こうしたことから、優れた文化芸術の鑑賞機会の充実が図ることができたといえます。

【主要な取組の達成状況】

○ 文化会館・美術館での優れた舞台芸術や美術作品などの鑑賞機会の充実

指標名	平成 16	平成 22 (目標値)	平成 22 (現状)
文化鑑賞を行っている市民の割合	70%	73%	89.8%
文化会館の利用者数	530,000 人	545,000 人	525,000 人
美術館の鑑賞者数	61,000 人	70,000 人	92,445 人

基本施策3 文化芸術の発表機会の充実

市民芸術祭やジュニア芸術祭への参加者が増加しており、発表機会の充実が図ることができたといえます。

【主要な取組の達成状況】

○ 市民芸術祭、ジュニア芸術祭の発表の場としての充実

指標名	平成 16	平成 22 (目標値)	平成 22 (現状)
市民芸術祭の参加者数	3,500 人	4,500 人	3,836 人
ジュニア芸術祭の参加者数	17,000 人	18,000 人	25,647 人

基本施策4 芸術家の育成・支援

エスペール文化振興事業については、成果発表などにより受賞者の育成に努めています。

【主要な取組の達成状況】

○ 宇都宮エスペール文化振興事業（若手芸術家の育成事業）の充実

指標名	平成 16	平成 22 (目標値)	平成 22 (現状)
エスペール賞受賞者の成果発表などの展示会や公演回数	2 回	10 回	10 回

基本施策5 文化芸術を担う人材・団体の育成・支援・顕彰

芸術団体への活動支援としての後援名義支援や市民ボランティアの養成などは着実に推進しました。

一方、芸術家の顕彰事業としての文化功労賞の創設については、他の賞との差別化などが課題であり、未実施となっています。

【主要な取組の達成状況】

○ 市民ボランティアの育成講習会の開催とネットワークの構築

指標名	平成 16	平成 22 (目標値)	平成 22 (現状)
市民ボランティア養成講習会の受講者総数	100 人	300 人	198 人

○ 宇都宮市文化功労賞の創設

指標名	平成 16	平成 22 (目標値)	平成 22 (現状)
文化功労賞の受賞者	0 人	40 人	0 人

基本施策6 文化活動施設の整備

ホール関係施設の整備については、平成19年度に屋外ステージ(オリオンスクエア)が整備されました。文化会館については、開館から30年が経ち、施設の老朽化への対応が必要になっています。

ギャラリー関係施設の整備については平成19年に市民ギャラリーと妖精ミュージアムが開設され充実しました。

また、市公共施設の活用と管理については学校校舎の開放が進むなど、公共施設の有効活用が図られてきています。

(2) 基本方針Ⅱ「文化遺産・伝統文化などを活かし、伝える仕組みづくり」

基本施策1 文化財の保存・活用

本市は、サテライト型の文化財公開施設により、各地域でテーマ別に文化財を公開していますが、収蔵スペースは狭く分散化しています。

こうした中でも、宇都宮城址公園の整備に伴いガイダンス施設を新設するなどした結果、市の文化財等施設の来訪者数は目標を大幅に上回りました。

また、学校単位での文化財保護活動なども活発で、文化財の活用については成果が見られています。

【主要な取組の達成状況】

○ 飛山城史跡公園やとびやま歴史体験館を活用した啓発事業の展開

指標名	平成16	平成22 (目標値)	平成22 (現状)
市の文化財等施設※の来訪者数	50,000人	75,000人	126,000人

※うつのみや遺跡の広場、飛山城史跡公園、旧篠原家住宅、宇都宮城址公園ガイダンス施設、上河内民俗資料館、

○ 上神主・茂原官衙遺跡の保存・活用の推進

指標名	平成16	平成22 (目標値)	平成22 (現状)
上神主・茂原官衙遺跡の土地の公有化	5%	100%	79.8%

基本施策2 伝統芸能や生活文化の継承

平成19年度から新たにスタートした伝統文化継承事業での参加者・鑑賞者数は目標を大幅に上回り、伝統文化の継承に十分な成果をあげています。

【主要な取組の達成状況】

○ 宇都宮伝統（ふるさと）文化継承事業の新設

指標名	平成16	平成22 (目標値)	平成22 (現状)
宇都宮伝統（ふるさと）文化継承事業の参加者・鑑賞者数	—	600人	17,000人

基本施策3 潤いのある文化的環境の整備

まちなみ景観賞などは充実し、文化的環境の意識高揚が図れていますが、大谷の文化的景観保存事業については、保存計画策定が必要になるなどの課題があり、検討を進めているところです。

(3) 基本方針Ⅲ「文化資源を活用した宇都宮の特色づくり」

基本施策1 個性のある文化資源の活用

ジャズ・妖精・百人一首といった宇都宮の文化資源を活用した事業に積極的に取り組んでおり、ジャズにおいては参加者が増えている一方で、百人一首は参加者が伸び悩んでいます。

【主要な取組の達成状況】

○ ジャズのまちづくり事業の推進

指標名	平成 16	平成 22 (目標値)	平成 22 (現状)
ジャズのイベント参加者・鑑賞者数	65,000 人	72,500 人	127,515 人

○ 百人一首市民大会の拡充

指標名	平成 16	平成 22 (目標値)	平成 22 (現状)
百人一首市民大会参加者数	440 人	640 人	426 人

基本施策2 観光・産業振興との連携

ジャズ関連イベントなど、まちなかの観光イベント来場者数も増加しています。また、大谷地区の観光もイベント来場者が増加するなど、地域の文化資源が観光や産業の資源としても活用されており、特色あるまちづくりが進められています。

【主要な取組の達成状況】

○ 商店街事業との連携強化

指標名	平成 16	平成 22 (目標値)	平成 22 (現状)
商店街事業との連携事業数	7 本	12 本	16 本以上

基本施策3 文化芸術情報の集約、発信

平成22年度から、文化財情報メールマガジンを配信するなど、情報ネットワークを活用した文化情報の発信に積極的に取り組んでいますが、その利用が伸び悩んでいます。

【主要な取組の達成状況】

○ 文化に関する総合的な情報ネットワークシステムの構築

指標名	平成16	平成22 (目標値)	平成22 (現状)
歴史・文化財ネットワークの年間アクセス数	20,000件	35,000件	18,000件

基本施策4 文化芸術交流の促進

民間団体等を通じた文化芸術交流など民間主体の活動が行われています。

4. 市民アンケート結果

下記のとおり市民の文化に関する意識調査を、一般市民や文化活動者、文化団体などを対象に実施しました。市民意識調査の結果は概ね次のようにまとめることができます。

■ 調査の概要

(1) 調査地域 宇都宮市全域

(2) 調査対象者 満20歳以上80歳未満の市民 3,000人
住民基本台帳から100分の1の無作為抽出及び文化活動関係者

(3) 抽出方法 ※前回調査対象は文化活動関係者のみであったが、今回の調査にあたり、より一般的な市民のニーズを把握するため、半分の調査対象を無作為抽出した。

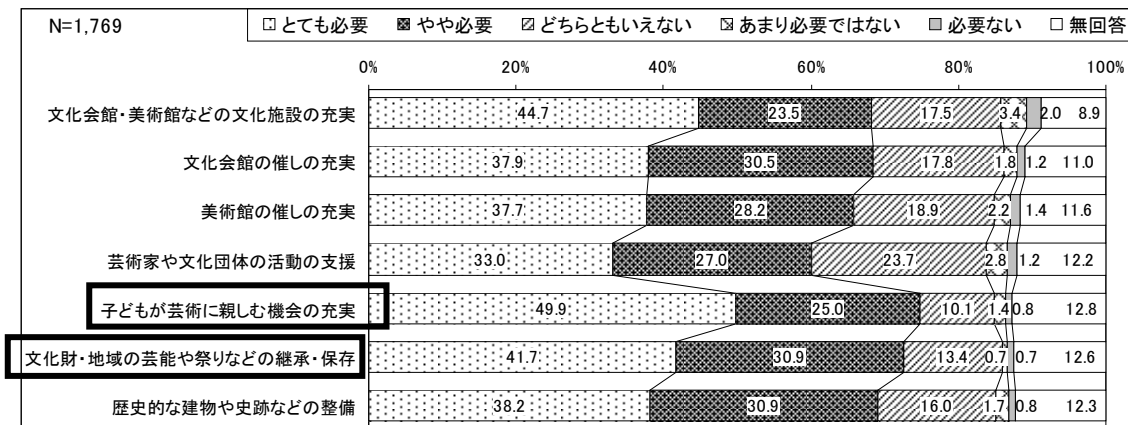
(4) 調査方法 郵送法

(5) 調査期間 平成22年2月24日～3月10日

■ 回収結果

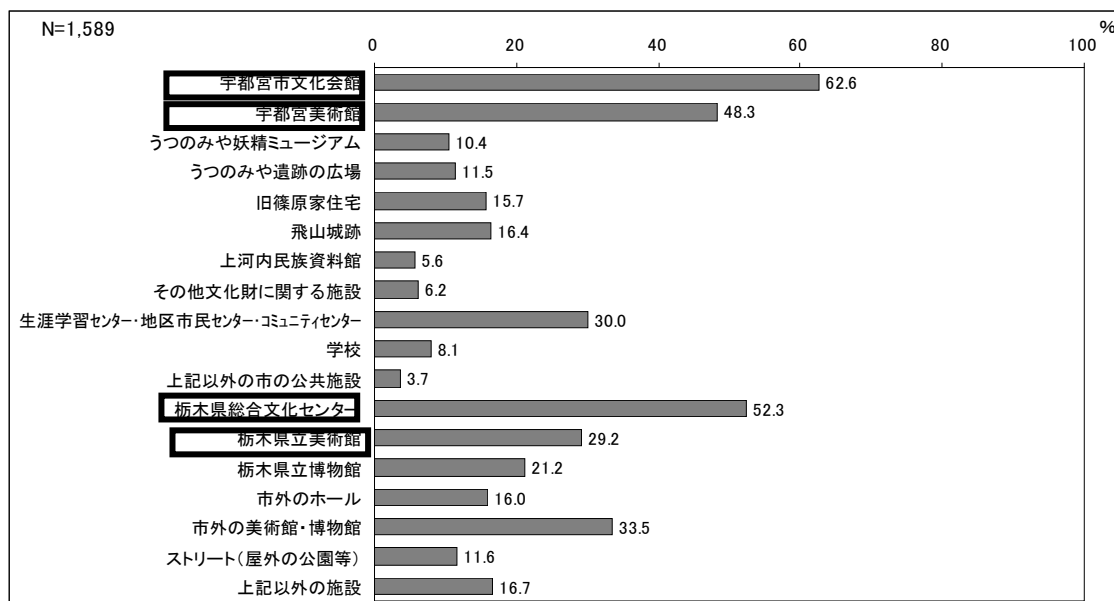
標本数	回答数	回答率
3,000	1,769	59.0%

(1) 環境整備の必要性について



環境整備の必要性については、「必要性を感じる（とても必要、やや必要）」が、全ての項目で6割以上と高い結果となっています。特に、「子どもが芸術に親しむ機会の充実」と「文化財・地域の芸能や祭りなどの継承・保存」については7割以上と高い結果となり、文化の担い手育成についてのニーズが高くなっています。

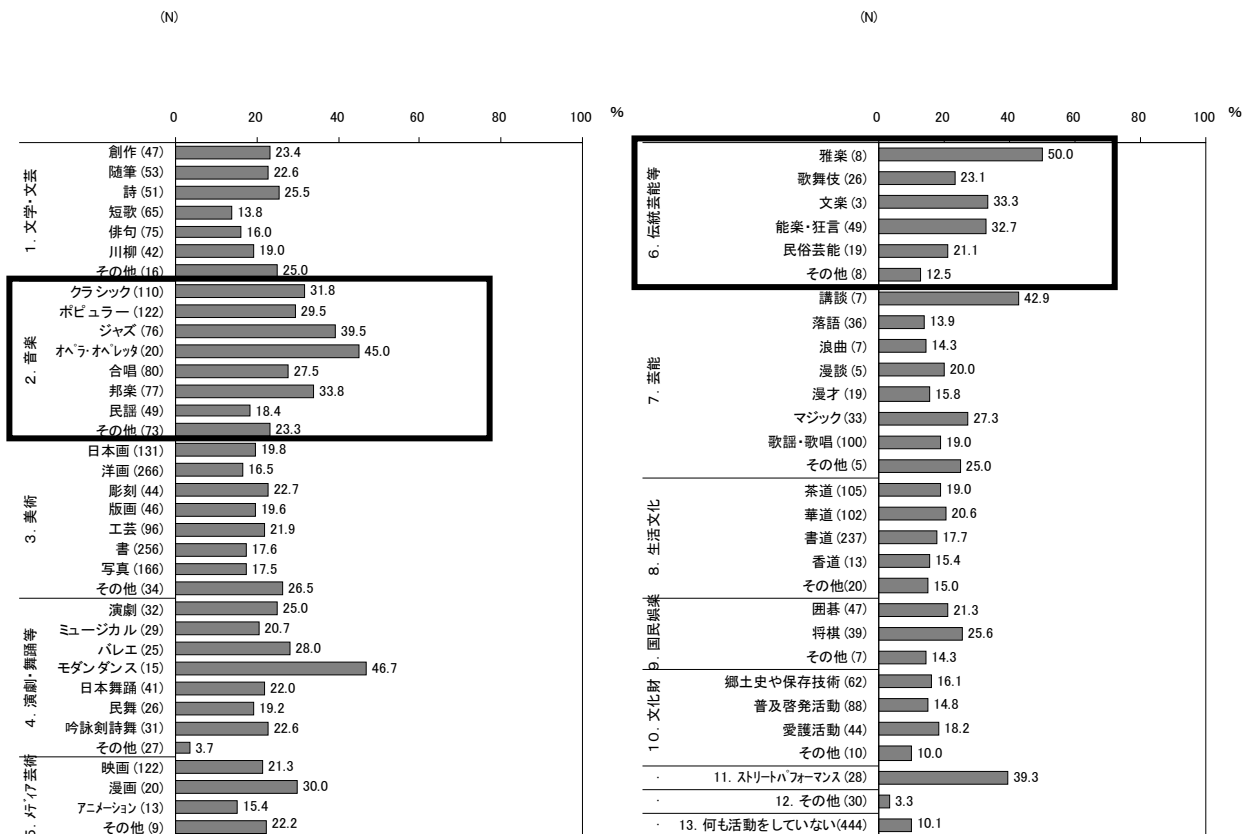
(2) 「鑑賞・見学」の場所（複数回答可）



「鑑賞・見学」の場所については、「宇都宮市文化会館」（62.6%）が6割以上で最も多く、次いで「栃木県総合文化センター」（52.3%）、「宇都宮美術館」（48.3%）が5割前後となっています。

「宇都宮市文化会館」及び「宇都宮美術館」は市民にとって身近な文化芸術を鑑賞する施設として評価されていると分析できます。

(3) 練習室や工房の整備や拡充を図ることを希望している文化芸術団体

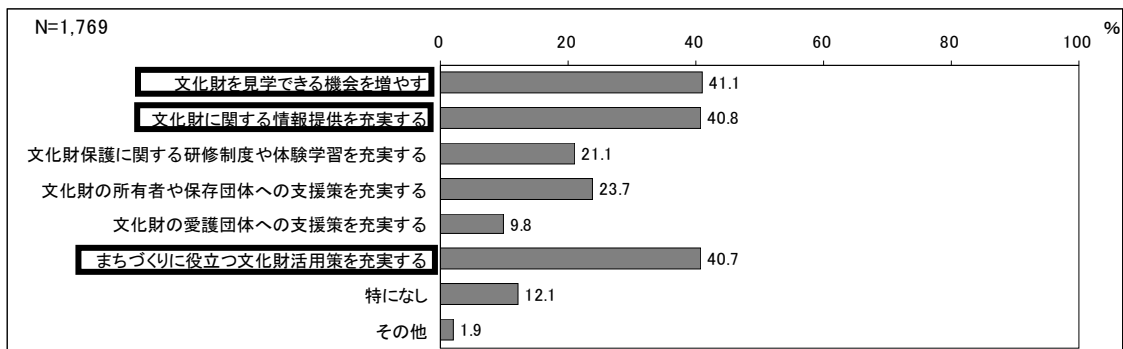


芸能伝統等の「雅楽」では、半数が整備や充実を図ることを希望しています。

また、音楽の「オペラ・オペレッタ」、演劇・舞踊等に「モダンダンス」、芸能の「講談」でも4割以上となっています。

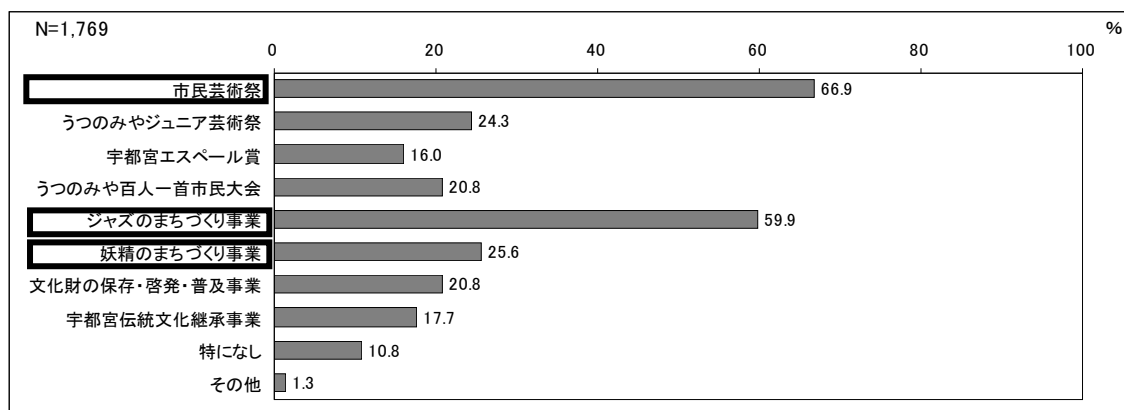
能楽などの伝統芸能等においては、専用の舞台が必要であり、演劇・舞踊系及び音楽系の文化活動においては、大きな音を出せる場所が必要不可欠です。このような、多様な文化活動を支援する環境の整備が求められています。

(4) 文化財保護行政への要望



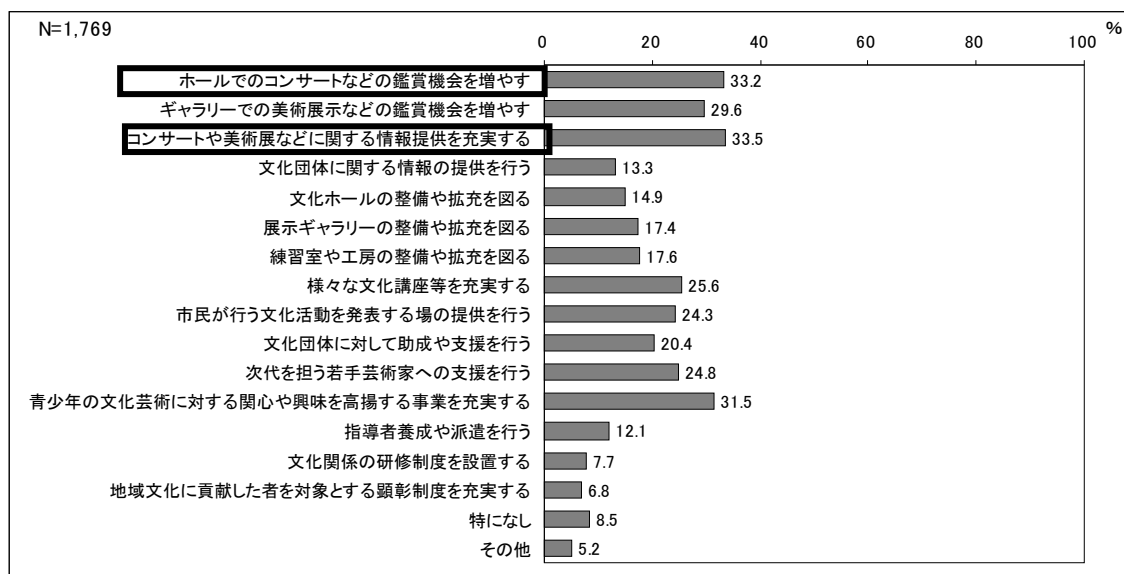
文化財保護行政に対し希望することは、「文化財を見学できる機会を増やす」(41.1%)、「文化財に関する情報提供を充実する」(40.8%)、「まちづくりに役立つ文化財活用策を充実する」(40.7%)で4割以上と多い結果となっています。

(5) 文化事業の認知



宇都宮市で実施している文化事業について聞いたところ、「市民芸術祭」(66.9%)で6割台半ば、「ジャズのまちづくり事業」(59.9%)で約5割が参加または知っている事業と回答しており、他項目と比較すると3割以上も多い結果となっています。

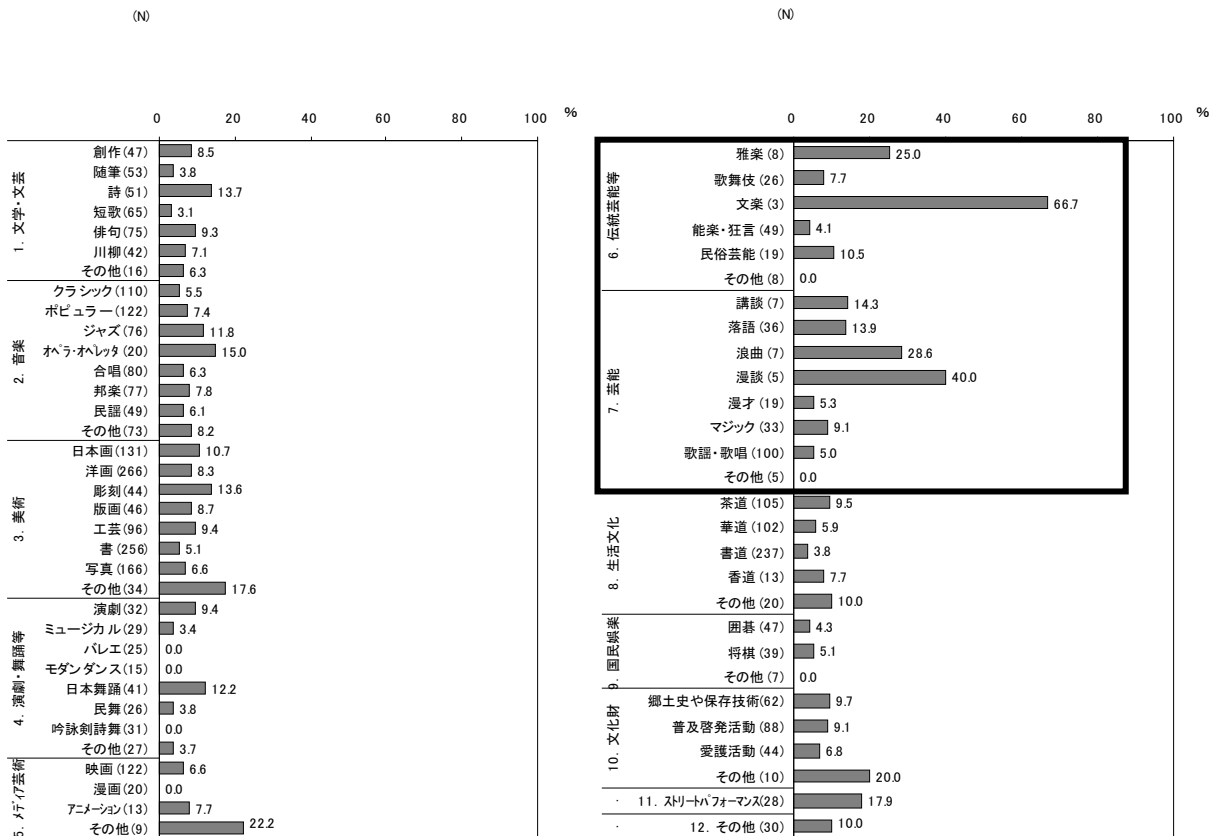
(6) 芸術文化振興行政への要望



芸術文化振興行政に対し希望することは、「コンサートや美術展などに関する情報提供を充実する」(33.5%)、「ホールでのコンサートなどの鑑賞機会を増やす」(33.2%)、「青少年の文化芸術に対する関心や興味を高揚する事業を充実する」(31.5%)で3割以上と多い結果となりました。

文化芸術に関する情報提供に対する市民の要望が高いことがうかがえます。

(7) 情報交流の場が少ないと感じている文化芸術団体



伝統芸能等の「文楽」で6割以上が情報交流の場が少ないと感じており、次いで芸能の「漫談」で4割となっています。

5. 今後重点的に取り組むべき課題

第2章の「文化を取り巻く環境の動向」、第3章の「宇都宮市における文化を取り巻く環境の変化」「前期計画（H18～H22）の推進状況」「市民アンケート結果」を踏まえ、文化振興にかかる課題を、以下のようにまとめました。

課題1 文化の担い手づくりの取組を強化する必要があります

本市はこれまでも各種教育普及事業を展開してきましたが、「高齢化」や「人口減少」により文化の担い手不足が課題となっています。今後、地域文化の担い手の育成を強化するため、特に子どもを対象に鑑賞・体験・活動など文化に触れる機会を充実し、生涯にわたる文化活動につなげるとともに、文化活動に対する支援を強化することで、市民の創造的な文化活動につなげる必要があります。

課題2 文化活動の場の充実に取り組む必要があります

市民の「文化」へのかかわり方は、これまでの「鑑賞」中心から、活力ある地域づくり等と結びつき、徐々に積極的な「活動」とへ展開されつつあります。

このような動きをとらえ、市民の主体的な文化活動を更に促進するため、経済状況等を勘案しながら、市民に身近な施設である市文化会館や美術館や既存の市有施設などを中心に文化芸術の活動や発表の場を充実する必要があります。

課題3 特色ある文化を次代につなぎ、まちづくりに活かす必要があります

国や県において、個性的で活力ある地域社会の実現に向けた取組が重点的に進められており、本市においても、宇都宮市民の誇りとなる文化的環境を次世代に伝えるため、個性的で活力ある地域づくりを積極的に推進してきました。今後も引き続き、市民の宇都宮に対する愛着や郷土愛の醸成の促進の観点や、これまでの取組の成果として「ジャズのまちづくり事業」などに対する市民の認知度が高くなりつつある点を踏まえ、宇都宮の強みを活かし、地域の文化的資源をまちづくりに役立てることが必要です。

課題4 文化情報の発信を強化する必要があります

市民の文化活動が活発化し、「文化」についての「情報提供の充実」に対する要望も高くなっています。現在、市では歴史・文化財活用ネットワークなど、情報ネットワークによる文化情報の発信を始めたところですが、今後更に市民が知りたい情報をいつでも気軽に収集できる手法等を検討し、情報発信の強化を行う必要があります。